

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年9月26日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890101516
事業所名	グループホーム ガリラヤ久米
(ユニット名)	西通り1丁目1番地
記入者(管理者)	
氏名	飛鷹 美知子
自己評価作成日	平成30年 9月 1日

<p>【事業所理念】 『今、ここで生きている人々に寄り添うことを使命とする』</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ※初回外部評価につき実績なし</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平成29年度に新設され、特別養護老人ホームやデイサービスを併設した高齢者総合福祉施設の1階に位置している。ゴミなどの汚染物は各階のシューターで移動させ、外部で管理することで、館内の臭気への配慮や衛生管理の徹底がなされている。その他、壁面に埋め込まれた加湿システムや、昇降機能付き浴槽等の最新の設備を揃える一方で、建物内装には木材をふんだんに使用しており、近代的な建物でありながらも、どこか懐かしさを感じられる印象を受ける。新設に合わせ、様々な経験を持つ職員が雇用された。職員の支援の様子は穏やかで、認知症状をもつ利用者や手をつなぎ、気になる場所を共に歩く姿に安心感を感じずにはいられなかった。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	普段の会話の中から、今までの生活の様子や考え方価値観を知るようにしている。また、折に触れ希望や気持ちを伺うようにしている。	○		○	個別の対応をしている時だけでなく、皆で談笑をしている時にも、不意に思いを話す利用者もいるため、職員はさっとメモをしておいて、介護日誌や申し送りノート、事業所独自のアセスメント様式である「トータルケアアセスメントシート」に記録している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	認知の為、意向の把握が難しい時は、生活歴や職歴、本人の性格などを考慮しつつ、本人の心地良い状態や環境という視点で検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に話をするが、あまり踏み込んだ話はできていない。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	記録はとっているが、ほぼ生活の記録となっており「暮らし方への思い」という面では具体性に欠けている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の表情や言葉から気持ちを推察し、どうしたいのか伺いながら対応するよう気を付けている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時のアセスメントでおおよそは把握しているが、新たな情報は少ない。			○	入居時にも家族への聞き取りは行っているが、支援方法に迷った時などにはその都度家族に確認や相談をして、利用者が安心納得して支援が受けられるようアイデアやヒントをもらっている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	聞き取りから分かった、今までの生活の様子や職歴などから得意な事、好きなことなどを把握している。実際に行動してみて、現状を把握するよう努力している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	毎日の様子を観察することで、現在の不安要素やパターンはほぼ把握できている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の様子観察やカンファレンスでどういった時に不安になるのか入居者ごとに把握できており、予測ができる。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	毎日の様子観察やカンファレンスで生活のリズムは入居者ごとに把握できており、おおよその見通しが立っている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のユニット会やカンファレンス以外にもその都度、話し合い検討している。家族も何かあれば知らせてくれる。			○	月1回開催するユニット会で利用者のカンファレンスを行い、日頃収集した情報を元に利用者が必要としているケアについて話し合っている。会議では職員から提案がよく出されると管理者は実感している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	スタッフ同士で気づいたことがあれば情報交換しており、ユニット会やカンファレンスで更に検討を重ねている。必要であれば家族にも相談している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会やカンファレンスで検討した結果、課題となる事柄を導き出している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常会話を通して思いや意向を話し合っているが、具体的内容はなかなか引き出せていない。出来る範囲で、本人の気持ちに沿えるよう努力している。	/	/	/	利用者や家族の希望も聞き取り、ユニット会のカンファレンスでの検討結果を踏まえて、計画作成担当者が作成している。計画作成担当者は、家族からの聞き取りについて、十分に思いを引き出せていないと感じている。それぞれの意見を反映した計画の作成が今後の課題との気づきがある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	スタッフ間では常に情報を共有して、アイデアを出し合いながらケアに臨んでいる。本人・家族からの聞き取りは不十分。	○	/	△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	認知面で重度の利用者に対して、慣れ親しんだ暮らしが提供できているかという点、不十分。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	主に外出について家族の協力を得ているが、プランには加えていない。地域の人との関係作りはこれからの課題となっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンス等で情報共有しており、内容についても確認している。	/	/	○	利用者一人ひとりの計画内容については、カンファレンスで共有している上、日々の記録用紙である総合記録シートには計画実施のチェック欄があり、常に意識しながら支援が行えるように工夫されている。利用者の言葉や変化は介護日誌に記録し、両ユニットで共有している。職員の気付きや提案等については、ユニット会で検討し、ユニット会議議題書で確認することができる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	チェックする欄はあるが、実施していてもチェックを忘れることがある。状況確認については、特に変わった事があれば記録に残すが、口頭で伝聞することも多い。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録の欄が小さい事もあり、普段と違う様子を中心に記録に残している。変化の大きい方とあまり変わらない方と記録の内容にどうしても差が出てしまう。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	支援経過の中に書くようにしている。普段は、その都度話し合い、実施しており記録に残していない事もある。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月毎に見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は3か月毎に見直しを実施し、毎月のユニット会議で全利用者の現状確認が行えている。利用者の状態に変化が生じた場合は、家族や職員間で話し合い、随時現状に即した新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のユニット会でカンファレンスを行い、現状確認や問題提起、ケアの変更等話し合っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	心身の状態に大きな変化があった時には見直しを行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	問題が起きた時にはその都度スタッフ間で話し合いを行い、ケアの方向性や方法を検討している。時差勤務の為、ユニット会以外での会議は難しい。	/	/	○	ユニット会のカンファレンスにおいて、利用者の支援方法を検討し、対応方法や支援の仕方の変更等を共有するほか、緊急案件は当日の出勤者で話し合いを持っている。会議内容は議題書にまとめ、参加できなかった職員は議題書を確認したり、口頭での申し送りを受けている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	スタッフ同士で些細な事でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。お互いの意見を尊重し、相手の話を聞く姿勢を持つようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	ユニット会は毎月第3月曜日と決めて実施している。業務や行事の都合で開催が難しいと思われる時は、その都度日程調整を行い周知している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りとして口頭で伝える他、会議録の記録を読んで内容を確認してもらっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日誌の他ユニットごとの連絡ノートを使って情報を共有している。	/	/	◎	家族に関する伝達事項を含め、口頭での申し送りや議題書や連絡ノート、介護日誌等を確認して共有している。様式には、閲覧後に押印する欄を設けており、確実に情報共有ができるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	職員が出勤した際に、早出がその日の申し送りを行う。また大切な内容は日誌や記録シートに記録し、翌日以降の出勤者も内容が把握できるようにしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	問いかけても、なかなか思い浮かばない様子で、具体的な返答は得られない為、職員主導でレクや体操を実施している。	/	/	/	<p>飲食の好みや衣類の選択など、生活の中の様々な場面で、利用者が自己決定する前に職員が決めてしまっていることに気づきを持った。利用者がその日したいことをその時の気分によって選択できる機会を失うことなく、気持ちを引き出す支援方法について、職員間で検討の機会を持って欲しい。職員の声かけや寄り添う対応には優しさを感じることができ、雰囲気づくりには留意している。</p>
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	飲み物や着替えを選ぶ際などに一緒に選んでいただいているが、業務優先になり、職員が全て用意してしまう事も多い。	/	/	△	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	ゆっくりと傾聴して本人の思いを理解するよう努力している。職員主導で、日課を決めている場面も多い。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床や食事の時間など、ある程度決まった時間はあるが、その時々状態に合わせて対応している。本人の生活のペースやリズムに配慮し気分よく生活できるよう配慮している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	入居者に接するときは明るい表情と声を心掛けている。また一人ひとりの性格や好み把握し、どう接すれば喜んでくれるかを踏まえて対応している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や言葉から気持ちを推察し、どうしたいのか伺いながら対応するよう気を付けている。また、生活のパターンからおおよその検討をつけ、トイレに誘導したり、間食を準備するなど不安や不快な状態を長引かせない努力をしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	拘束虐待委員会の活動を通して人権や尊厳についての意識を高める努力をしている。入居者の方々に対しては、共生の意識をもって、自尊心を大切にされた対応を心がけている。	◎	◎	○	<p>拘束委員会の活動や、人権や尊厳について学ぶ機会を設けている。改めて声かけや対応を振り返った時に、つい大きな声になってしまったり、配慮にかけていたのではないかと感じることもあり、常に意識して対応できるように努めて欲しい。居室への出入りについて、ノックや理由を説明するなどの適切なマナーが守られている。</p>
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	普段はそのように心掛けているが、難聴の方に話すときなど、つい大きな声で対応している事がある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	入浴は個室なのでゆっくりと関わりながら行っている。トイレは居室についており、安心して使用して頂いている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際は、どういった用事で入るのか説明している。また、本人が在室の際は、ノックをして声をかけてから入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	法令順守の勉強会を実施しており理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	出来る事、得意な事を生かせる場を作るようにしているが、不十分。お互いに「ありがとう」という言葉が日常的によく聞かれている。	/	/	/	<p>他者のことが気になり、思ったことを口にしてしまう利用者や、個々の持つ性格や症状からトラブルを引き起こしそうな場面があっても、職員が関わったり、リビングの配席に配慮することで程良い距離感が保てている。</p>
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解できている。そうなれるよう、働きかけている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	おのおのの性格や生活歴を把握して、主導権を渡しつつもトラブルにならないよう声掛けをしたり、距離感を調節したりしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	善悪ではなく、可能なら相手の気持ちや状態を伝え理解を求め。難しいようなら、しばらく物理的に距離を置くなどして気持ちが収まるのを待つ等ケースバイケースで対応する。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時の聞き取りで確認しているが、細かいところまでは十分分かっていない。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	現在関りのない関係や場所については知らないことが多い	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会に来られる方との交流はあるが、ホームから出向くことは少ない。地域の盆踊りや地域のサロンに参加したこともある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室でゆっくり過ごして頂けるよう案内している。また、いつでも来てください、と伝えて歓迎の意を表している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	個別対応としての外出はあまり実施できていない。ホーム側で外出計画を立てて、参加の有無を確認しての外出が多くなっている。気候の良い時は、施設周辺の散歩に誘って短時間の外出は実施している。	○	○	△	月に1回は外出イベントを計画し、重度の利用者も共に体調に合わせて参加でき、降車せず車窓から景色を眺める等のドライブを実施している。併設の施設では地域のサロンを開催しており、希望者は参加することができる。現在敷地内にせせらぎが楽しめる池を整備しており、完成すれば日常の散歩コースとして取り入れたいと楽しみにしている。今後は利用者の希望に応じて、ちょっとした買い物へ気軽に出かけたいと検討中である。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	盆踊りなど地域の行事に参加する際、協力を得ている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	利用者の状況に合わせて、外出の機会をつくっている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	可能なところは、家族対応で外出している	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の周辺症状について、ユニット会、日々の申し送りの際などに話し合い、本人の不安を取り除けるよう取り組んでいる。	/	/	/	できるだけ手や口を出さずに見守るよう心がけている。忙しい時などつい手を出し過ぎて感じるような声も聞かれたが、訪問調査時には様子を見守ったり、そっと寄り添う支援が実施されていた。日常的に意識して支援していけるように、振り返りの機会を設けて欲しい。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活リハビリや体操、散歩等を行い、今の機能が維持できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	出来るだけ自身で出来るよう、声掛け、見守りを行っているが、つい手を出してしまう場面が多い。	◎	/	△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個性や能力を踏まえて、役割をお願いしている。	/	/	/	お茶葉のパック詰めや畑の草引きなど、アセスメントで楽しみごとや役割を把握し、得意な作業を職員と一緒にやっている。楽器が弾ける職員がおり、演奏してもらうのを楽しみにしている利用者も多い。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	どの方も、何かしら得意な事や出来る事があり、他者からも認知されるよう声掛けや感謝の意を表現するようにしている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	お祭りや盆踊りなど、地域の行事に参加させていたがっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	個別差があり、まったく頓着しない方もいるが、その人らしさという点を踏まえて対応している。				利用者のこだわりや気に入っている髪型等、おしゃれの支援についてアセスメントができており、日々の支援への活用や、今後重度化した場合のその人らしさの支援に期待が持てる。重度な状態であっても、プライドに配慮して食食用エプロンの使用を控え、さりげなく拭き取り用のタオルを置いている程度で、自然なスタイルだと感じられた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自宅ですべてのものを持ってこられており、本人の好みのもと思われる。こだわりのある方には、その都度対応している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に相談しながら行っている。決められない場合は二者択一など、決めやすいよう対応している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れがあれば、自室で新しいものと交換している。不都合なことは、他の入居者が気が付かないよう、そと対応している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望があれば対応している。現在は訪問理美容を利用している				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	訪問の散髪など、状況に合わせて支援していく。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	おおよそ理解している。				併設施設の厨房で調理しており、事業所のキッチンでは炊飯のみ行っている。利用者は洗った食器の拭きあげ等の作業を一緒にしたり、季節の果物などの食材を使用した菓子作りを楽しんでいる。当日は職員の口添えなしに慣れた手つきでスイートポテトを作っている利用者があり、得意なことを活かしていた。入居時に嗜好の好みやアレルギーについて把握し、アセスメントシートにまとめている。食器類は使い慣れたものを持ち込んだり、事業所で用意した使いやすいものを使用している。職員は別に休憩時間を設け、利用者の食事時には傍らで見守りや食事介助を行っている。重度な利用者も、他利用者と共にリビングで配膳を楽しみに待っていた。給食委員会を開催し、献立のバランスや栄養状態など、話し合いの機会がある。ミキサー食であっても盛り付けや彩りなどに配慮した食事の提供に積極的に、調査時にはミキサー食の工夫点について説明を受け、試食させていただいた。利用者を思う意気込みや、法人全体で利用者を支えていると感じられた。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	施設で作った食事を提供しているが、おやつや食事イベントなどで一緒に準備・調理をしている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	コップを洗ったり、拭いたりしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	おおよそ把握している。苦手なものは外して提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	時々ユニットでちらし寿司や炊き込みなど、入居者の好みのもを一緒に作っている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	施設として対応している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅より持参して頂いたものも使用している。形状、重さなど利用者に応じて使い分けている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食べていない。傍らで見守りや介助は行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	おやつ作りなどで実施しており、匂いなどを感じていただいている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が管理している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	嗜好に合った物を用意する、夜間に目が覚めたら水分を勧める等している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	給食委員会を毎月実施して話合っている			◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房で一括して行っている。ユニットでは、日曜日に冷蔵庫の清掃消毒を行い、期限切れの食品などチェックを行っている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会等に参加し理解を深めている。	/	/	/	利用者一人ひとりの口腔内の健康状況について、総合記録シートに記録しているが、セルフケアが行える利用者のトラブルに気づくのが遅れてしまいがちだと気づきを持った。今後は定期的なアセスメントを実施し、総合記録シートを活用して欲しい。毎食後に歯磨きや口腔ケアを実施し、むせ等の症状がある利用者には食前の口腔体操などのケアも取り入れている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	痛み等訴えがあれば確認するが、常に口腔内は確認できていない。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修等で学んでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日1回の消毒、毎食後の洗浄を支援している。難しい入居者については、夜間義歯を預かり管理している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	起床時、毎食後の歯磨きを励行している。義歯の自己管理の難しい方は夜間、義歯を預かり入れ歯洗浄剤につけている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	看護師より協力病院に連絡して往診の手配をしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	施設内の勉強会に参加し理解を深める努力をしている。	/	/	/	居室内のトイレでの自然排泄を支援している。パッドを追加することで布パンツを利用することができたり、アセスメントを行って利用者の状況にあった排泄用品を選んでいる。主治医の意見や利用者の習慣、精神的負担の軽減として、夜間のみポータブルトイレを使用することもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	施設内の勉強会に参加し理解を深める努力をしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録に残すことで把握できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	日中と夜間を使い分けたり、体調によって変更するなどしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレの場所が分からない等、認知の為支障となっていることがあれば、表情や様子を見て誘導するなどしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	食事や散歩の前など、本人のタイミングに合わせて声掛け誘導を実施している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	状態に合わせて職員が家族や本人に提案し了解を得ている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	実施している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	ファイバーの飲用、水分摂取、運動、腹部マッサージなど実施している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	おおよそは決まっているが、希望があれば応じている。	◎	/	◎	毎日入浴ができるよう準備されており、利用者の気分に合わせて順番に入っている。シャワーチェアからそのままスライドして浴槽へ入れる設備が整えられた浴槽で、利用者、職員共に負担なく浴槽に浸かることができる。家族の希望で、専用のシャンプー類を使用している利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯かげんや入浴時間など本人に合わせて実施している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗体、洗髪、浴槽へのまたぎなど、出来る範囲で自身で行ってもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	本人が納得できるような言葉がけをして誘っている。拒否が強い場合は、時間をずらしたり、日をかえたりしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルを測定している。入浴後はバイタルは測定していないが、目視で体調に変化が無いかな確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠時間や様子を記録に残しており把握できている。	/	/	/	眠れない時にはリビングで職員とおやつを食べたり、足浴をしたりとリラックスできるように工夫している。一日の過ごし方を確認しながら睡眠状態を看護師に報告し、主治医に服薬の相談を行っている。主治医の指示で薬が処方されている利用者もあり、看護師とも連携をとって様子を見ている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中起きて過ごせるよう、散歩やレクで身体を動かす様努力しているが、難しい	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	看護師に1日の様子を報告し、医療とも相談しながら薬の調整をしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	実施している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	県外在住の家族以外はよく面会に来られるため電話や手紙のやり取りはほとんどない。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	県外在住の家族以外はよく面会に来られるため電話や手紙のやり取りはほとんどない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	県外在住の家族以外はよく面会に来られるため電話や手紙のやり取りはほとんどない。こちらからアプローチもできていない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	県外在住の家族以外はよく面会に来られるため電話や手紙のやり取りはほとんどない。本人の要望もほとんどなく、こちらからのアプローチもできていない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人からの訴えはほとんどなく、こちらからのアプローチもできていない。対応できるように準備はしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解していると思う。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望者は週2回の移動販売で買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	週に2回移動販売が来ており、主に利用している。それ以外は大型スーパーを利用することになり理解や協力はお願いしていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	数人を除いて、家族の判断でお金の所持はしていない。お金を使う事があれば、施設立て替えで対応している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話をして納得してもらっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	必要なものがあるときや本人が買い物や外出で現金が必要な時は、家族に連絡し、施設立て替え等の許可をもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	出来る範囲で要望には応じているが、多様なニーズがまだ発生しているという認識がない	◎	/	△	夫婦や兄弟姉妹など身内同士の入居もあり、同室希望等の家族のニーズにできる限りの対応を検討している。開設後間もないが、その時々ニーズには柔軟に対応したいという姿勢を持っており、具体的な取組みに期待したい。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	複合施設の為、玄関や建物周囲は施設が工夫している。ホームの玄関は季節の物を飾っていたが、異食、収集される入居者がおられるため現在はあまり実施できていない	◎	◎	○	複合施設の玄関と共用であるが、広々としており、スタンドグラスや花が活けられた華やかな雰囲気がある。出入口にも飾り棚に季節感のある小物を飾ったり、おもてなしの空間として工夫しているユニットもある。開設間もなく、建物周囲の整備を進めている所であった。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	木材を使用した、温もりのある環境が整えられている。利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾を工夫している。	◎	◎	○	リビングは木材をふんだんに使った作りで、温かみ溢れる空間である。空調や臭気には特にこだわりを持ち、壁面埋め込み型の加湿システムや汚物処理システムを導入し、衛生面に配慮している。幼稚な印象を受けないよう、手の込んだ紙細工を選んで飾っており、季節感を感じられるように配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	職員が中心になっているが、毎日日課として掃除をして清潔を保っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾を工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者に応じて、居室で過ごせる時間を確保している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	見えない構造になっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	一部の方は、自宅に飾られていた写真や絵などをお持ちいただき飾っていただいたり、使い慣れた家具をお持ちいただいたりしている。	◎	/	/	居室にはトイレと洗面台があり、ベッドと床頭台が用意されている。テーブルや引き出し式収納ケースなどの使い慣れた物を持ち込んでもらい、自宅での暮らしに近づけられるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	リビングや居室内の構造など、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように考えられている。	/	/	/	居室の収納ケースには、中に入れている衣類が分かりやすいよう大きく表記したり、自室を間違えがちな利用者には、表札とは別に大きな目印を付ける等、一人ひとりの利用者に合わせて工夫がされている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	リビングの椅子に名前を付けたり、居室の入口に表札や目印をつけたりして、間違えて他者の居室に入らないように工夫をしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	本や新聞などは手に届く位置に置いているが、取集癖のある方もおられるので、ほかのものはあまり置けていない。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけることの弊害を理解し開所当初は、鍵をかけずに過ごしていたが、実際に建物外に離設される利用者もおられたため、施錠させていただくようになった。	◎	◎	△	施設玄関は日中解放されているが、事業所玄関や勝手口の扉は施錠されている。隣のユニットや上階の施設フロアへ散歩に行くことも多く、外出したい利用者には職員が付き添っている。施設周囲の交通状況や安全確保のために施錠することになったが、職員も施錠をすることの弊害については理解している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	施錠させていただくことで、安全面を優先させていただいていることを説明し、理解して下さっている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	GH入口と建物の玄関(事務所前)にも赤外線センサーを設置し、他部署への協力を依頼して対応していたが、現在は日中も施錠をさせていただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前のアセスメントシートにより、把握するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	総合記録シートを活用し、記録をこまめにとっており、異常の早期発見につとめている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師に健康面での相談はいつでもできる。夜間もオンコール体制がきちんととれている。過ごとの振り返り(ダブルチェック)を看護師と行い、重度化の防止につとめている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所時に、協力病院の説明はしているが、本人・家族の希望を優先するようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所時に、協力病院の説明はしているが、本人・家族の希望を優先するようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	実施できている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	実施できている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	実施できている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	実施できている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	何でも相談できる関係が築けている。また、看護師の方からも記録を確認し、情報を収集している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間のオンコール体制がきちんととれている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	実施できている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の種類等は把握しているが、副作用等については十分理解できていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	誤薬を防ぐためのマニュアルを作り、それに沿って服薬介助を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	看護師と、薬についての相談は行っているが、日常的なレベルではない。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	実施できている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	看取りの指針を作成しており、これまでに一人看取りを行った実績がある。看護師の配置があり、夜間の緊急時連絡体制が整備されていることから、ユニットを横並びに配置した中間にスタッフルームを設けることで連携が密になり、夜勤帯も一人ではないという安心感があると職員は話している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	実施できている。入所時にも説明している。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修や定期的な勉強会で、勉強している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルが準備されている。対応方法については、時期ごとに再確認をしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	朝礼や委員会で報告し、周知するようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	朝礼や委員会で報告し、周知するようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	実施できている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に、利用者と一緒にイベント時や普段の様子などをお話している。				家族会や行事への家族参加については、今後実施していく方向で検討しているところである。利用者によって変わったことなどがあれば随時電話で連絡したり、面会時に口頭で伝えたりしている。これまでに職員の退職や交代などの異動はなく、報告の場面はなかった。事業所便りの発行も検討しているので、運営上の事柄や出来事の報告や具体的に伝える工夫について期待したい。家族が気軽に相談できるよう、来訪時には積極的に声かけし、良好な関係づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時に、利用者と一緒にイベント時や普段の様子などをお話している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	あまり家族が参加できるイベントなどは計画できていないが、散歩や受診外出などで協力していただいている。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	おたよりやメールなどは実施しておらず、今後ブログ等で情報発信できるようにしていきたい。	◎		△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族の質問や要求があった場合は、報告をするようにしている。不安に感じていることなどを把握できている場合は、それをふまえて報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	支援できていると思う。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	外出行事や、費用の掛かるイベント参加などは、都度ご家族に確認をしている	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族同士の交流機会はほとんどない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	今後の起こりうるリスクについては、できるだけ事前にお伝えするようにしている。(転倒・食欲不振等)				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に、お茶等を出すだけでなく、利用者と一緒にイベント時や普段の様子などをお話している。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	出来るだけわかりやすくお伝えできるようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	支援できていると思う。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用料の変更時などは、文書で案内を出し、同意を得るようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立段階から、説明や理解を図っている。	/	◎	/	今年度は地域の祭りや盆踊りに参加した。今後は施設でのイベントに地域住民に参加してもらえるように企画をすすめ、相互に行き来しながら交流したいと考えている。加えて、利用者が地域と密接に関わっていけるよう、今後の事業所の活動に期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	普段からあいさつなどには気を付け、お祭りや盆踊りなどには利用者と一緒に参加させていただいている。	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	なにかあった時には、支援して下さる方もたくさんおられると思う。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	○	内覧会の時はたくさんの方が来られた。民生委員、ボランティアの方のほか、地域の方も面会に来てくださっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	あいさつは必ずするようにしている。地域サロンを、もっと活用できれば良いと思う。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	フラダンスやカラオケ等のイベント訪問に参加させていただくことがある。近隣施設のイベント・盆踊りなどに参加させていただくこともある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近所への散歩、スーパーへの買い物、病院の利用など限られている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣施設のイベント・盆踊りなどに参加させていただくこともある。外出等で地域のお店にも協力していただいている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はないが、家族や地域の方には参加してもらっている。	x	/	△	運営推進会議には、家族や地域住民の参加協力を得ているが、参加者は固定しがちであり、幅広く参加を促す仕組みについて期待したい。会議では写真をスライドで見てもらい、利用者の暮らしぶりを視覚的に伝えている。利用者の生き生きとした表情に、家族から写真を分けて欲しいと要望されることもあり、伝え方の工夫の重要性を実感している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	自己評価・外部評価はまだ未実施の為、報告していない。それ以外については報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者全員から最後にひとこといただき、出された意見は日々の取り組みに活かすようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	いまのところ、ほぼ同じ人数と時間帯であるが、内容がマンネリ化してきているので、今後については工夫が必要。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念については、職員会などで重ねて確認をするようにしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ご家族には、入所時に説明させていただいている。利用者・地域の方には、あまりかしまっては話できていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	基礎介護勉強会等を通じて、内部研修は計画的に実施するようにしている。外部研修も、偏りがないうように配慮しながら、内容に応じて参加している。	/	/	/	メンタルヘルス対策を組織的に行っており、アンケートによる個別分析結果に基づき、必要に応じて外部の専門家に相談できる体制が整備されている。代表者は日常的に施設に来ており、事業所にも顔を出している。外部研修にも積極的で、職員は勤務扱いで参加している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	経験のある職員が多いが、新人職員にはOJTを通じて、計画的に育成している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境・条件の整備はできている。各自の向上心までは持っていないように感じる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム交流会で、他の施設との交流はあるが、十分ではないと思う。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	こころ塾の活用などで、ストレス軽減にとりくんでいる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、不適切ケアについて周知している。	/	/	/	施設全体で定期的に研修会が開催されており、虐待防止についても積極的に学んでいる。管理者は、職員の声かけで気になることがあれば個別に話を聞いている。慌てていると声かけがきつくなったり不適切な対応が増えてしまうため、早め早めに職員同士が確認し合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	実施できている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	実施できている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。ユニット会などで、実際の事例を話し合うこともある。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	いまのところ、そのような要望はほとんどみられないが、実際に要望があった際には、きちんと対応していきたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	普段の仕事の中では馴染みがうすく、理解するのは難しい。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	いまのところ、相談等は無い。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	いまのところ、相談等は無い。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	意識不明等の急変に対してのマニュアルはあり、全体に周知しているが、怪我等個別のマニュアルはない。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	研修では学んだが、定期的に訓練はできていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハットとも整備されており、速やかに記入ができています。ただ、内容の閲覧まで、十分な検討まではできていない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	実施できている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは整備されているが、いまのところ苦情はまだでていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	いまのところ苦情はまだでていない。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	いまのところ苦情はまだでていないが、実際に苦情が寄せられた場合は、速やかに対応していきたい。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は作成しているが、いまのところ苦情はよせられていない	/	/	○	利用者には日常生活の中で意向を伺い、家族には面会時を中心として意見や要望がないか伺っている。職員は意見や要望があれば、まずはユニットリーダーである計画作成担当者へ、その後管理者を経て施設長まで意見を挙げる仕組みになっている。半年に一度、事業所内で職員はユニットリーダーと、ユニットリーダーは管理者と面談を行い、思いを共有している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は作成しているが、いまのところ苦情はよせられていない	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初だけしか情報提供できていない	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	機会をつくり、利用者にも声をかけている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	現場に入り、実際のケアにあたりながら、職員とも意見交換や指導を行っている	/	/	○	

愛媛県グループホーム ガリラヤ久米

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	今回の評価が初めて。自己評価は数人の職員で行ったが、実施後の振り返りは全員に周知していきたい	/	/	/	開設後初めての外部評価であり、各ユニット毎に全職員で自己評価に取り組んだ。今回の結果を、運営推進会議や家族等へ報告し、意見を出し合っ て今後の改善や工夫に役立てていく予定である。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	今回の評価が初めてなので、今後のために活用していきたい	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	-	今回の評価が初めてなので、今後のために活用していきたい	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	-	実施後は、各所に報告を行い、今後に活かしていきたい	×	○	-	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	-	実施後は、各所に報告を行い、今後に活かしていきたい	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	火災時の対応マニュアルは作成している。そのマニュアルに準じて、他の災害時にも行動できるように伝えていきたい	/	/	/	家族や地域住民との協力・支援体制づくりとして、話し合いなどの機会や合同での訓練は不可欠で、今後の実施に期待したい。実施していく中で生じる課題に取り組みながら、災害への備えを強化して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	実際の避難訓練は行っていないが、夜間の通報訓練などを通して、行動マニュアルを周知するようにしている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	ガリラヤ久米全体で、物品の用意・点検を行っている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	避難訓練で、消防署の協力を得て、指導等いただいているが、地域住民や他の事業所との訓練や話し合いはできていない	×	○	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	同上。 合同訓練に参加した。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	グループホーム単体での情報発信や啓発活動はできていない	/	/	/	施設全体として地域の方からの相談支援を行っており、必要に応じて見学の対応や相談に応じている。地区内のグループホーム交流会に参加して、地域包括支援センターや他の事業所との連携を深めている。地域のサロンを施設内で実施している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	居宅支援事業所で支援を行っている。 グループホームでは、入所希望者の見学や相談支援を行っている	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	グループホームとしては場所の提供等できていないが、地域サロンを活用していただいている	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	東温市のガリラヤ荘と連携して、学生等の実習受け入れに協力している	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	グループホーム交流会で、他の施設との交流はあるが、十分ではないと思う。 地域の盆踊りや、お祭りの訪問に参加し楽しませていただいている	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年9月26日(水)

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890101516
事業所名	グループホーム ガリラヤ久米
(ユニット名)	西通り1丁目2番地
記入者(管理者)	
氏名	飛鷹 美知子
自己評価作成日	平成30年 9月 1日

<p>【事業所理念】 『今、ここで生きている人々に寄り添うことを使命とする』</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ※初回外部評価につき実績なし</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平成29年度に新設され、特別養護老人ホームやデイサービスを併設した高齢者総合福祉施設の1階に位置している。ゴミなどの汚染物は各階のシューターで移動させ、外部で管理することで、館内の臭気への配慮や衛生管理の徹底がなされている。その他、壁面に埋め込まれた加湿システムや、昇降機能付き浴槽等の最新の設備を揃える一方で、建物内装には木材をふんだんに使用しており、近代的な建物でありながらも、どこか懐かしさを感じられる印象を受ける。新設に合わせ、様々な経験を持つ職員が雇用された。職員の支援の様子は穏やかで、認知症状をもつ利用者や手をつなぎ、気になる場所を共に歩く姿に安心感を感じずにはいられなかった。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	普段の会話の中から、今までの生活の様子や考え方価値観を知るようにしている。また、折に触れ希望や気持ちを伺うようにしている。	○		○	個別の対応をしている時だけでなく、皆で談笑をしている時にも、不意に思いを話す利用者もいるため、職員はさっとメモをしておいて、介護日誌や申し送りノート、事業所独自のアセスメント様式である「トータルケアアセスメントシート」に記録している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	認知の為、意向の把握が難しい時は、生活歴や職歴、本人の性格などを考慮しつつ、本人の心地良い状態や環境という視点で検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に話をし、昔の様子やご本人の人生観など教えて頂いている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	記録はとっているが、ほぼ生活の記録となっており「暮らし方への思い」という面では具体性に欠けている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の表情や言葉から気持ちを推察し、どうしたいのか伺いながら対応するよう気を付けている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入居時のアセスメントでおおよそは把握しているが、新たな情報は少ない。			○	入居時にも家族への聞き取りは行っているが、支援方法に迷った時などにはその都度家族に確認や相談をして、利用者が安心納得して支援が受けられるようアイデアやヒントをもらっている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	聞き取りから分かった、今までの生活の様子や職歴などから得意な事、好きなことなどを把握している。実際に行動してみて、現状を把握するよう努力している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	毎日の様子を観察することで、現在の不安要素やパターンはほぼ把握できている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の様子観察やカンファレンスでどういった時に不安になるのか入居者ごとに把握できており、予測ができる。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	毎日の様子観察やカンファレンスで生活のリズムは入居者ごとに把握できており、おおよその見通しが立っている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のユニット会やカンファレンス以外にもその都度、話し合い検討している。家族も何かあれば知らせてくれる。			○	月1回開催するユニット会で利用者のカンファレンスを行い、日頃収集した情報を元に利用者が必要としているケアについて話し合っている。会議では職員から提案がよく出されると管理者は実感している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	スタッフ同士で気づいたことがあれば情報交換しており、ユニット会やカンファレンスで更に検討を重ねている。必要であれば家族にも相談している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会やカンファレンスで検討した結果、課題となる事柄を導き出している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	日常会話を通して思いや意向を話し合っているが、具体的内容はなかなか引き出せていない。出来る範囲で、本人の気持ちに沿えるよう努力している。	/	/	/	利用者や家族の希望も聞き取り、ユニット会のカンファレンスでの検討結果を踏まえて、計画作成担当者が作成している。計画作成担当者は、家族からの聞き取りについて、十分に思いを引き出せていないと感じている。それぞれの意見を反映した計画の作成が今後の課題との気づきがある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	面会に来られた時に、生活の様子を伝えており家族からの提案や協力を得ている。入居者には理解度や性格等に配慮しながら、話している。スタッフ間では常に情報を共有して、アイデアを出し合いながらケアに臨んでいる。	○	/	△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居者のベースに合わせてケアを行い、一方的なケアにならないよう配慮している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	主に外出について家族の協力を得ているが、プランには加えていない。地域の人との関係作りはこれからの課題となっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンス等で情報共有しており、内容についても確認している。	/	/	○	利用者一人ひとりの計画内容については、カンファレンスで共有している上、日々の記録用紙である総合記録シートには計画実施のチェック欄があり、常に意識しながら支援が行えるように工夫されている。利用者の言葉や変化は介護日誌に記録し、両ユニットで共有している。職員の気付きや提案等については、ユニット会で検討し、ユニット会議議題書で確認することができる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	チェックする欄はあるが、実施してもチェックを忘れることがある。状況確認については、特に変わった事があれば記録に残すが、口頭で伝聞することも多い。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	記録の欄が小さい事もあり、普段と違う様子を中心に記録に残している。変化の大きい方とあまり変わらない方と記録の内容にどうしても差が出てしまう。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	支援経過の中に詳しく書いている。普段は、その都度話し合い、実施しており記録に残していない事もある。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月毎に見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は3か月毎に見直しを実施し、毎月のユニット会議で全利用者の現状確認が行えている。利用者の状態に変化が生じた場合は、家族や職員間で話し合い、随時現状に即した新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のユニット会でカンファレンスを行い、現状確認や問題提起、ケアの変更等話し合っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	心身の状態に大きな変化があった時には見直しを行っている。必要に応じてカンファレンスを開催しており、現状に合ったケアプランを作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	問題が起きた時にはその都度スタッフ間で話し合いを行い、ケアの方向性や方法を検討している。それぞれが意見を出し合い解決方法を導き出している。	/	/	○	ユニット会のカンファレンスにおいて、利用者の支援方法を検討し、対応方法や支援の仕方の変更等を共有するほか、緊急案件は当日の出勤者で話し合いを持っている。会議内容は議題書にまとめ、参加できなかった職員は議題書を確認したり、口頭での申し送りを受けている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	スタッフ同士で些細な事でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。お互いの意見を尊重し、相手の話を聞く姿勢を持つようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	ユニット会は毎月20日と決めて実施している。業務や行事の都合で開催が難しいと思われる時は、その都度日程調整を行い周知している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	申し送りとして口頭で伝える他、会議録の記録を読んで内容を確認してもらっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日誌の他ユニットごとの連絡ノートを使って情報を共有している。	/	/	◎	家族に関する伝達事項を含め、口頭での申し送りや議題書や連絡ノート、介護日誌等を確認して共有している。様式には、閲覧後に押印する欄を設けており、確実に情報共有ができるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員が出勤した際に、早出がその日の申し送りを行う。また大切な内容は日誌や記録シートに記録し、翌日以降の出勤者も内容が把握できるようにしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	問いかけても、なかなか思い浮かばない様子で、具体的な返答は得られない為、職員主導でレクや体操を実施している。	/	/	/	<p>飲食の好みや衣類の選択など、生活の中の様々な場面で、利用者が自己決定する前に職員が決めてしまっていることに気づきを持った。利用者がその日したいことをその時の気分によって選択できる機会を失うことなく、気持ちを引き出す支援方法について、職員間で検討の機会を持って欲しい。職員の声かけや寄り添う対応には優しさを感じることができ、雰囲気づくりには留意している。</p>
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	飲み物や着替えを選ぶ際などに一緒に選んでいただいている。何かする際には、入居者に「どうする？ どうしたい？」という問いかけをするようにしている。	/	/	△	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	ゆっくりと傾聴して本人の思いを理解するよう努力している。理解が難しい時は、具体的な言葉や言い方を変えるなどして分かりやすい表現で伝えるようにしている。本人の意向に沿ったケアを心がけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床や食事の時間など、ある程度決まった時間はあるが、その時々状態に合わせて対応している。本人の生活のペースやリズムに配慮し気分よく生活できるよう配慮している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	入居者に接するときは明るい表情と声を心掛けている。また一人ひとりの性格や好みを把握し、どう接すれば喜んでくれるかを踏まえて対応している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や言葉から気持ちを推察し、どうしたいのか伺いながら対応するよう気を付けている。また、生活のパターンからおおよその検討をつけ、トイレに誘導したり、間食を準備するなど不安や不快な状態を長引かせない努力をしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	拘束虐待委員会の活動を通して人権や尊厳についての意識を高める努力をしている。入居者の方々に対しては、共生の意識をもって、自尊心を大切にされた対応を心がけている。	◎	◎	○	<p>拘束委員会の活動や、人権や尊厳について学ぶ機会を設けている。改めて声かけや対応を振り返った時に、つい大きな声になってしまったり、配慮にかけていたのではないかと感じることもあり、常に意識して対応できるように努めて欲しい。居室への出入りについて、ノックや理由を説明するなどの適切なマナーが守られている。</p>
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	普段はそうように心掛けているが、難聴の方に話すときや、事態が切迫しているときなどは大きな声で対応している事がある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	入浴は希望があれば同性介助で行っています。トイレは居室についており、安心して使用して頂いています。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際は、どういった用事で入るのか説明している。また、本人が在室の際は、ノックをして声をかけてから入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	法令順守の勉強会を実施しており理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	めいめいの出来る事、得意な事を生かせる場を作っている。ありがとう、という言葉が日常的によく聞かれている。	/	/	/	<p>他者のことが気になり、思ったことを口にしてしまう利用者や、個々の持つ性格や症状からトラブルを引き起こしそうな場面があっても、職員が関わったり、リビングの配席に配慮することで程良い距離感が保てている。</p>
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	理解できている。そうなれるよう、働きかけている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	おのおのの性格や生活歴を把握して、主導権を渡しつつもトラブルにならないよう声掛けをしたり、距離感を調節したりしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	善悪ではなく、可能なら相手の気持ちや状態を伝え理解を求める。難しいようなら、しばらく物理的に距離を置くなどして気持ちが収まるのを待つ等ケースバイケースで対応する。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	おおよそは知っているが、細かいところまでは分からない部分もあるかも	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	現在関りのない関係や場所については知らないことが多い	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	面会に来られる方との交流はあるが、ホームから出向くことはほとんど無い。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室でゆっくり過ごして頂けるよう案内している。また、いつでも来てください、と伝えて歓迎の意を表している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	個別対応としての外出はあまり実施できていない。ホーム側で外出計画を立てて、参加の有無を確認しての外出が多くなっている。気候の良い時は、施設周辺の散歩に誘って短時間の外出は実施している。	○	○	△	月に1回は外出イベントを計画し、重度の利用者も共に体調に合わせて参加でき、降車せず車窓から景色を眺める等のドライブを実施している。併設の施設では地域のサロンを開催しており、希望者は参加することができる。現在敷地内にせせらぎが楽しめる池を整備しており、完成すれば日常の散歩コースとして取り入れたいと楽しみにしている。今後は利用者の希望に応じて、ちょっとした買い物へ気軽に出かけたいと検討中である。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	盆踊りや秋祭りなど地域の行事に参加する際は協力して頂いている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	寝たきりの入居者はいないが、重度の認知症の方も外出を楽しんでいただけるよう、場所や方法を検討して実施している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族対応で外出している	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の周辺症状について、ユニット会、日々の申し送りの際などに話し合い、本人の不安を取り除けるよう取り組んでいる。	/	/	/	できるだけ手や口を出さずに見守るよう心がけている。忙しい時などつい手を出し過ぎて感じるような声も聞かれたが、訪問調査時には様子を見守ったり、そっと寄り添う支援が実施されていた。日常的に意識して支援していけるように、振り返りの機会を設けて欲しい。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活リハビリや体操、散歩等を行い、今の機能が維持できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来るだけ自身で出来るよう、声掛け、見守りを行っている	◎	/	△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個性や能力を踏まえて、役割をお願いしている。	/	/	/	お茶葉のパック詰めや畑の草引きなど、アセスメントで楽しみごとや役割を把握し、得意な作業を職員と一緒にやっている。楽器が弾ける職員がおり、演奏してもらうのを楽しみにしている利用者も多い。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ほぼ出来ている。どの方も、何かしら得意な事や出来る事があり、他者からも認知されるよう声掛けや感謝の意を表現するようにしている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の行事に参加している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	個別差があり、まったく頓着しない方もいるが、その人らしさという点を踏まえて対応している。				利用者のこだわりや気に入っている髪型等、おしゃれの支援についてアセスメントができており、日々の支援への活用や、今後重度化した場合のその人らしさの支援に期待が持てる。重度な状態であっても、プライドに配慮して食食用エプロンの使用を控え、さりげなく拭き取り用のタオルを置いている程度で、自然なスタイルだと感じられた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自宅ですべてのものを持ってこられており、本人の好みのもと思われる。こだわりのある方には、その都度対応している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に相談しながら行っている。決められない場合は二者択一など、決めやすいよう対応している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れがあれば、自室で新しいものと交換している。不都合なことは、他の入居者が気が付かないよう、そと対応している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望があれば対応している。現在は訪問理美容を利用している				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	現在、寝たきりの方はおられないが、認知症があっても、本人の好みに合わせた服装を心掛けている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	おおそ理解している。				併設施設の厨房で調理しており、事業所のキッチンでは炊飯のみ行っている。利用者は洗った食器の拭きあげ等の作業を一緒にしたり、季節の果物などの食材を使用した菓子作りを楽しんでいる。当日は職員の口添えなしに慣れた手つきでスイートポテトを作っている利用者があり、得意なことを活かしていた。入居時に嗜好の好みやアレルギーについて把握し、アセスメントシートにまとめている。食器類は使い慣れたものを持ち込んだり、事業所で用意した使いやすいものを使用している。職員は別に休憩時間を設け、利用者の食事時には傍らで見守りや食事介助を行っている。重度な利用者も、他利用者と共にリビングで配膳を楽しみに待っていた。給食委員会を開催し、献立のバランスや栄養状態など、話し合いの機会がある。ミキサー食であっても盛り付けや彩りなどに配慮した食事の提供に積極的に、調査時にはミキサー食の工夫点について説明を受け、試食させていただいた。利用者を思う意気込みや、法人全体で利用者を支えていると感じられた。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	現在は施設で作った給食を提供しているが、ツ炊飯やおやつ作り、行事の食事など一緒に手作りできる機会をもっている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	コップを洗ったり、拭いたりしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	おおそ把握している。苦手なものは外して提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	時々ユニットでちらし寿司や炊き込みなど、入居者の好みのもを一緒に作っている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	施設として対応している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅より持参して頂いたものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食べられる状況では無い為食事は別にとっているが、食事中は傍らで見守りや介助は行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	炊飯やおやつ作りを通して実施している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が管理している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	嗜好に合った物を用意する、夜間に目が覚めたら水分を勧める等している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	給食委員会を毎月実施して話合っている			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	日曜日は冷蔵庫の清掃消毒を行い、期限切れの食品などチェックを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会等に参加し理解を深めている。	/	/	/	利用者一人ひとりの口腔内の健康状況について、総合記録シートに記録しているが、セルフケアが行える利用者のトラブルに気づくのが遅れてしまいがちだと気づきを持った。今後は定期的なアセスメントを実施し、総合記録シートを活用して欲しい。毎食後に歯磨きや口腔ケアを実施し、むせ等の症状がある利用者には食前の口腔体操などのケアも取り入れている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	痛み等訴えがあれば確認するが、常に口腔内は確認できていない。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	研修等で学んでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	難しい入居者については、夜間預かり管理している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	起床時、毎食後の歯磨きを励行している。義歯の自己管理の難しい方は夜間、義歯を預かり入れ歯洗浄剤につけている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	看護師より協力病院に連絡して往診の手配をしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	施設内の勉強会に参加し理解を深める努力をしている。	/	/	/	居室内のトイレでの自然排泄を支援している。パッドを追加することで布パンツを利用することができたり、アセスメントを行って利用者の状況にあった排泄用品を選んでいる。主治医の意見や利用者の習慣、精神的負担の軽減として、夜間のみポータブルトイレを使用することもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	施設内の勉強会に参加し理解を深める努力をしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録に残すことで把握できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日中と夜間を使い分けたり、体調によって変更するなどしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	トイレの場所が分からない等、認知の為支障となっていることがあれば、表情や様子を見て誘導するなどしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	食事や散歩の前など、本人が思いつきやすいタイミングに合わせて声掛け誘導を実施している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	状態に合わせて職員が家族や本人に提案し了解を得ている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	実施している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	ファイバーの飲用、水分摂取、運動、腹部マッサージなど実施している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	おおよそは決まっているが、希望があれば応じている。	◎	/	◎	毎日入浴ができるよう準備されており、利用者の気分に合わせて順番に入っている。シャワーチェアからそのままスライドして浴槽へ入れる設備が整えられた浴槽で、利用者、職員共に負担なく浴槽に浸かることができる。家族の希望で、専用のシャンプー類を使用している利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯かげんや入浴時間など本人に合わせて実施している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗体、洗髪、浴槽へのまぎなど、出来る範囲で自身で行ってもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	本人が納得できるような言葉がけをして誘っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルを測定している。入浴後はバイタルは測定していないが、目視で体調に変化が無いかな確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	睡眠時間や様子を記録に残しており把握できている。	/	/	/	眠れない時にはリビングで職員とおやつを食べたり、足浴をしたりとリラックスできるように工夫している。一日の過ごし方を確認しながら睡眠状態を看護師に報告し、主治医に服薬の相談を行っている。主治医の指示で薬が処方されている利用者もあり、看護師とも連携をとって様子を見ている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中起きて過ごせるよう、散歩やレクで身体を動かす様努力しているが、難しい	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	看護師に1日の様子を報告し、医療とも相談しながら薬の調整をしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	実施している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	県外在住の家族以外によく面会に来られるため電話や手紙のやり取りはほとんどない 携帯を持たれている方は毎日連絡を取り合っておられる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	県外在住の家族以外によく面会に来られるため電話や手紙のやり取りはほとんどない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	県外在住の家族以外によく面会に来られるため電話や手紙のやり取りはほとんどない、入居者、家族の要望もないが要望があればすぐに対応できる準備はある	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	県外在住の家族以外によく面会に来られるため電話や手紙のやり取りはほとんどない、手紙やはがきは本人が管理し要望があれば連絡を取り合う準備はある	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	県外在住の家族以外によく面会に来られるため電話や手紙のやり取りはほとんどないが今後要望があれば対応できるよう準備はある	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自由と尊厳の維持という意味で理解している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望者が週2回の移動販売で買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	週に2回移動販売が来ており、主に利用している。それ以外は大型スーパーを利用することになり理解や協力をお願いしていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	数人を除いて、家族の判断でお金の所持はしていない。お金を使う事があれば、施設立て替えで対応している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話をして納得してもらっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	必要なものがあるときや本人が買い物や外出で現金が必要な時は、家族に連絡し、施設立て替え等の許可をもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	出来る範囲で要望には応じているが、多様なニーズがまだ発生しているという認識がない	◎	△	夫婦や兄弟姉妹など身内同士の入居もあり、同室希望等の家族のニーズにできる限りの対応を検討している。開設後間もないが、その時々ニーズには柔軟に対応したいという姿勢を持っており、具体的な取組みに期待したい。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	複合施設の為、玄関や建物周囲は施設が工夫している。ホームの玄関は季節の物を飾っていたが、異食、収集される入居者がおられるため現在はあまり実施できていない	◎	◎	○	複合施設の玄関と共用であるが、広々としており、スタンドグラスや花が活けられた華やかな雰囲気がある。出入口にも飾り棚に季節感のある小物を飾ったり、おもてなしの空間として工夫しているユニットもある。開設間もなく、建物周囲の整備を進めている所であった。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	木材を使用した、温もりのある環境が整えられている。利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾を工夫している。	◎	◎	○	リビングは木材をふんだんに使った作りで、温かみ溢れる空間である。空調や臭気には特にこだわりを持ち、壁面埋め込み型の加湿システムや汚物処理システムを導入し、衛生面に配慮している。幼稚な印象を受けないよう、手の込んだ紙細工を選んで飾っており、季節感を感じられるように配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	職員が中心になっているが、毎日日課として掃除をして清潔を保っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾を工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者に応じて、居室で過ごせる時間を確保している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	見えない構造になっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	一部の方は、自宅に飾られていた写真や絵などをお持ちいただき飾っていただいたり、使い慣れた家具をお持ちいただいたりしている。	◎	/	/	居室にはトイレと洗面台があり、ベッドと床頭台が用意されている。テーブルや引き出し式収納ケースなどの使い慣れた物を持ち込んでもらい、自宅での暮らしに近づけられるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	リビングや居室内の構造など、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように考えられている。	/	/	/	居室の収納ケースには、中に入れている衣類が分かりやすいよう大きく表記したり、自室を間違えがちな利用者には、表札とは別に大きな目印を付ける等、一人ひとりの利用者に合わせた工夫がされている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室の入口に表札や目印をつけたりして、間違えて他者の居室に入らないように工夫をしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	本や新聞などは手に届く位置に置いているが、収集癖のある方もおられるので、リビングにはほかのものはあまり置いていないが、自己管理で自室に置いておられる方はいらっしゃる。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけることの弊害を理解し開所当初は、鍵をかけずに過ごしていたが、実際に建物外に離設される利用者もおられたため、施錠させていただくようになった。	◎	◎	△	施設玄関は日中解放されているが、事業所玄関や勝手口の扉は施錠されている。隣のユニットや上階の施設フロアへ散歩に行くことも多く、外出したい利用者には職員が付き添っている。施設周囲の交通状況や安全確保のために施錠することになったが、職員も施錠をすることの弊害については理解している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	施錠させていただくことで、安全面を優先させていただいていることを説明し、理解して下さっている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	GH入口と建物の玄関(事務所前)にも赤外線センサーを設置し、他部署への協力を依頼して対応していたが、現在は日中も施錠をさせていただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前のアセスメントシートにより、把握するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	総合記録シートを活用し、記録をこまめにとっており、異常の早期発見につとめている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師に健康面での相談はいつでもできる。夜間もオンコール体制がきちんとしていて、過ごとの振り返り(ダブルチェック)を看護師と行い、重度化の防止につとめている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所時に、協力病院の説明はしているが、本人・家族の希望を優先するようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所時に、協力病院の説明はしているが、本人・家族の希望を優先するようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	実施できている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	実施できている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	実施できている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	実施できている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	何でも相談できる関係が築けている。また、看護師の方からも記録を確認し、情報を収集している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間のオンコール体制がきちんとしていて、				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	実施できている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	薬の種類等は把握しているが、副作用等については十分理解できていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬を防ぐためのマニュアルを作り、それに沿って服薬介助を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態の変化、疑問があればその都度看護師に伝え、情報の共有や交換、疑問の解消に努めている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	実施できている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	看取りの指針を作成しており、これまでに一人看取りを行った実績がある。看護師の配置があり、夜間の緊急時連絡体制が整備されていることから、ユニットを横並びに配置した中間にスタッフルームを設けることで連携が密になり、夜勤帯も一人ではないという安心感があると職員は話している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	実施できている。入所時にも説明している。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	実施できている。 ただ、看取りの実践はほとんどない。(短期間)	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修や定期的な勉強会で、勉強している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルが準備されている。対応方法については、時期ごとに再確認をしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	施設として情報を収集し、朝礼や委員会で情報を共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	流行時には手洗いや手すりやドアノブなどの消毒を強化し、換気にも気を付けている。また感染症が疑われる入居者は居室対応するなどして、蔓延を防いでいる。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	実施できている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	面会時に、利用者と一緒にイベント時や普段の様子などをお話しているようにしている。				家族会や行事への家族参加については、今後実施していく方向で検討しているところである。利用者が変わったことなどがあれば随時電話で連絡したり、面会時に口頭で伝えたりしている。これまでに職員の退職や交代などの異動はなく、報告の場面はなかった。事業所便りの発行も検討しているので、運営上の事柄や出来事の報告や具体的に伝える工夫について期待したい。家族が気軽に相談できるよう、来訪時には積極的に声かけし、良好な関係づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	面会時に、利用者と一緒にイベント時や普段の様子などをお話しているようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	あまり家族が参加できるイベントなどは計画できていないが、外出や散歩などで協力はして頂いている。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	県外在住などの理由で面会が難しいご家族には、時々手紙で様子をお知らせしている。おたよりやメールなどは実施しておらず、今後ブログ等で情報発信できるようにしていきたい。	◎		△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族の質問や要求があった場合は、報告をするようにしている。不安に感じていることなどを把握できている場合は、それをふまえて報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	支援できていると思う。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	外出行事や、費用の掛かるイベント参加などは、都度ご家族に確認をしている	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族同士の交流機会はほとんどない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	今後の起こりうるリスクについては、できるだけ事前にお伝えするようにしている。(転倒・食欲不振等)				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に、お茶等を出すだけでなく、利用者と一緒にイベント時や普段の様子などをお話しているようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	出来るだけわかりやすくお伝えできるようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	支援できていると思う。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	利用料の変更時などは、文書で案内を出し、同意を得るようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階から、説明や理解を図っている。	/	◎	/	今年度は地域の祭りや盆踊りに参加した。今後は施設でのイベントに地域住民に参加してもらえるように企画をすすめ、相互に行き来しながら交流したいと考えている。加えて、利用者が地域と密接に関わっていけるよう、今後の事業所の活動に期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	普段からあいさつなどには気を付け、お祭りや盆踊りなどには利用者と一緒に参加させていただいている。	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	なにかあった時には、支援して下さる方もたくさんおられると思う。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	○	民生委員やボランティア、地域の方が立ち寄って下さっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	あいさつは必ずするようにしており、顔なじみの関係になれる様配慮している。地域サロンを、もっと活用できれば良いと思う。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	フラダンスやカラオケ等のイベント訪問に参加させていただくことはある。地域施設(なかよし村、はばたき園など)とも交流しており、バザーなどのお誘いを受けている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の有効利用は十分にできていない。近所への散歩、スーパーへの買い物、病院の利用など限られている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	こちらからの働きかけや取り組みは、不十分な点もあるが、なかよし村のバザーへの参加、近隣の店舗などへの協力なども頂いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はないが、ご家族や地域の人には参加してもらっている。	x	/	△	運営推進会議には、家族や地域住民の参加協力を得ているが、参加者は固定しがちであり、幅広く参加を促す仕組みについて期待したい。会議では写真をスライドで見てもらい、利用者の暮らしぶりを視覚的に伝えている。利用者の生き生きとした表情に、家族から写真を分けて欲しいと要望されることもあり、伝え方の工夫の重要性を実感している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	自己評価・外部評価はまだ未実施の為、報告していない。それ以外については報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者全員から最後にひとこといただき、出された意見は日々の取り組みに活かすようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	いまのところ、ほぼ同じ人数と時間帯であるが、内容がマンネリ化してきているので、今後については工夫が必要と思われる。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念については、職員会などで重ねて確認を行い、入居者の気持ちに寄り添いながら、安心して生活できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ご家族には、入所時に説明させていただいている。利用者・地域の方には、あまりかしまっては話できていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	基礎介護勉強会等を通じて、内部研修は計画的に実施するようにしている。外部研修も、偏りがないうように配慮しながら、内容に応じて参加している。	/	/	/	メンタルヘルス対策を組織的に行っており、アンケートによる個別分析結果に基づき、必要に応じて外部の専門家に相談できる体制が整備されている。代表者は日常的に施設に来ており、事業所にも顔を出している。外部研修にも積極的で、職員は勤務扱いで参加している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	経験のある職員が多いが、新人職員にはOJTを通じて、計画的に育成している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境・条件の整備はできている。各自の向上心までは持っていないように感じる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム交流会で、他の施設との交流している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	こころ塾の活用などで、ストレス軽減にとりくんでいる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、不適切ケアについて周知している。	/	/	/	施設全体で定期的に研修会が開催されており、虐待防止についても積極的に学んでいる。管理者は、職員の声かけで気になることがあれば個別に話を聞いている。慌てていると声かけがきつくなったり不適切な対応が増えてきてしまうため、早め早めに職員同士が確認し合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	実施できている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	実施できている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。ユニット会などで、実際の事例を話し合うこともある。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	いまのところ、そのような要望はほとんどみられないが、実際に要望があった際には、きちんと対応していきたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	今のところ対象になる入居者がおらず、学びはこれからの課題である。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	いまのところ、相談等は無い。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	いまのところ、相談等は無い。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	意識不明等の急変に対するマニュアルはあり、全体に周知しているが、怪我等個別のマニュアルはないが、研修で学習はしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	研修では学んだが、定期的に訓練はできていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハットとも整備されており、速やかに記入ができています。ただ、内容の閲覧までで、十分な検討まではできていない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	実施できている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは整備されているが、いまのところ苦情はまだでていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	いまのところ苦情はまだでていない。	/	/	/	
		c	苦情に対するの対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	いまのところ苦情はまだでていないが、実際に苦情が寄せられた場合は、速やかに対応していきたい。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	相談窓口は作成しているが、いまのところ苦情はよせられていない	/	/	○	利用者には日常生活の中で意向を伺い、家族には面会時を中心として意見や要望がないか伺っている。職員は意見や要望があれば、まずはユニットリーダーである計画作成担当者へ、その後管理者を経て施設長まで意見を挙げる仕組みになっている。半年に一度、事業所内で職員はユニットリーダーと、ユニットリーダーは管理者と面談を行い、思いを共有している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	相談窓口は作成しているが、いまのところ苦情はよせられていない	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初だけしか情報提供できていない	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	機会をつくり声をかけている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場に入り、実際のケアにあたりながら、職員とも意見交換や指導を行っている	/	/	○	

愛媛県グループホーム ガリラヤ久米

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	今回の評価が初めて。自己評価は数人の職員で行ったが、実施後の振り返りは全員に周知していきたい	/	/	/	開設後初めての外部評価であり、各ユニット毎に全職員で自己評価に取り組んだ。今回の結果を、運営推進会議や家族等へ報告し、意見を出し合っ て今後の改善や工夫に役立てていく予定である。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	今回の評価が初めてなので、今後のために活用していきたい	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	-	今回の評価が初めてなので、今後のために活用していきたい	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	-	実施後は、各所に報告を行い、今後に活かしていきたい	×	○	-	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	-	実施後は、各所に報告を行い、今後に活かしていきたい	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災時の対応マニュアルは作成している。そのマニュアルに準じて、他の災害時にも行動できるように伝えていきたい	/	/	/	家族や地域住民との協力・支援体制づくりとして、話し合いなどの機会や合同での訓練は不可欠で、今後の実施に期待したい。実施していく中で生じる課題に取り組みながら、災害への備えを強化して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	実際の避難訓練は行っていないが、夜間の通報訓練などを通して、行動マニュアルを周知するようにしている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	ガリラヤ久米全体で、物品の用意・点検を行っている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	避難訓練で、消防署の協力を得て、指導等いただいているが、地域住民や他の事業所との訓練や話し合いはできていない	×	○	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	同上。 地域の災害対策としては、不十分な面もあるが、地域の方と一緒に避難訓練を実施するなどの取り組みを行っている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	グループホーム単体での情報発信や啓発活動はできていない	/	/	/	施設全体として地域の方からの相談支援を行っており、必要に応じて見学の対応や相談に応じている。地区内のグループホーム交流会に参加して、地域包括支援センターや他の事業所との連携を深めている。地域のサロンを施設内で実施している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	居宅支援事業所で支援を行っている。 グループホームでは、入所希望者の見学や相談支援を行っている	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	グループホームとしては場所の提供等できていないが、地域サロンを活用していただいている	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	東温市のガリラヤ荘と連携して、学生等の実習受け入れに協力している	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	グループホーム交流会で、他の施設との交流はあるが、十分ではないと思う。 地域の盆踊りや、お祭りの訪問に参加し楽しませていただいている	/	/	○	